



学校だより

令和5年11月30日

No. 9 12月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

ポプラのように

校長 金子 博美

一気に秋が深まりました。この時期になると、校庭のポプラの木の凛とした美しさに目を奪われます。風に乗って散る金色の葉が、とてもきれいです。

校庭の奥で子どもたちを見守るように立つポプラの木。教室からも見える学校のシンボルツリーに親しみをもっている子どもも多く、私が着任した当時もたくさんの子どもの「西小には、ポプラの木があるんだよ」と教えてくれました。調べてみると、「ポプラ」とは、特定の種の樹木を指す言葉ではなくポプラ類全般の総称で、日本においては「セイヨウハコヤナギ」を指して「ポプラ」と呼ぶことが一般的とのこと。では、西小のポプラは？・・・遡って調べてみたところ、学校にある「ポプラ樹木診断調査結果」に「セイヨウハコヤナギ（西洋箱柳）」とありました。もともとはヨーロッパや西アジアの樹木のように、成長がはやい、背が高い、ほうきのような樹形であるなど、そこに記されていた特徴も実際に目の前のポプラを見て納得です。さらに読むと、当時7本のポプラを診断したことやその時点で植栽後40年ほどになっていたことがわかりました。また、「ポプラは健全であっても根が浅く倒れやすいため、今後は3～5年ごとに風圧軽減剪定を」とも書かれていました。いつもポプラを眺めながら、末永く大切にしていきたいけれども子どもたちが周りで遊ぶ場所でどんどん伸びて危険ではないか・・・と少し気になっていたのも、いつまでも学校にとってのシンボルとして大切にしていくには、成長した姿や樹形を大きく変えることなく枝や葉を落とすという丁寧な剪定を続けることが必要なのだとわかりました。丁寧に手をかけ、折れることなく育てていくことが子どもたちへのかかわりのように感じました。

ポプラには「勇気」という花言葉もあるようです。開花は3月～5月、黄色や白色の花が咲き、花の後には綿毛をもつ種ができ、その綿毛が舞い散る様子を海外では「夏の雪」と呼ばれたり初夏の風物詩とされていたりすることもあるそうです。季節ごとに様子を変えるポプラのような豊かな表情を、柳のように風に揺れるしなやかな心と勇気をもつ子どもたちに育ててほしい・・・学校としてそういう思いも受け継いでいきたいと、ポプラを眺めつつ改めて思っています。

【11月25日（土）ハッピーランドを無事に開催することができました！】

西小の子どもたちだけではなく、保護者や地域の方、久しぶりに遊びに来た卒業生にも楽しんでいただけたのではないかと思います。PTA 役員の方々をはじめ準備にかかわってくださった皆様、本当にありがとうございました。

【人権週間の取組】～今年度は「共生社会」について～

11月28日のテレビ朝会では、人権について考えることの大切さ、人権と言っても様々な視点から考える必要があることなどについて、また「共生社会」とはいろいろな人がいてみんな一緒に生きていくことが大切という意味であることを子どもたちに発信しました。それを受けて各教室では、「なかよし遠足」での経験を振り返りながら、仲良くするためにがんばったことや相手のためによかったことについて考えたり話し合ったりしました。2月には、「アンプティーサッカー」という競技の選手をお招きする予定です。だれもがもつ権利である人権に対して子どもたちと共に考えることを今後も大切にしていきたいと考えています。